

理研会報

行 理 科 研 究 部 局
成 田 市 立 成 田 小 学 校
成 田 市 幸 町 9 4 8 0 1

研究部長挨拶

平成 元 年 度 を 迎 え て

印 教 研 理 科 研 究 部 長 公 津 小 学 校 長 五 味 健

平成元年度の理科研究部長になりましたが、前部長の中村先生の研究内容でありたい。また、それ以上に大きな成果を残された理科研究部です。後任者として引き継ぐことに不安を感じています。

ついでには皆様の温かいご協力を心からお願い申し上げます。

さて、指導要領の改訂にともない移行措置が実施されようとしている現在、指導現場はそのための研修が不可欠になっています。

「生活科」という新教科も誕生しました。その指導内容の中には、理科的な事項も多く含まれています。

このような状況の中ですら、研究部としての役割を十分考えなくてはならない時期に至っています。

教研集会の持ち方もさることながら、研究の質的転換が問われています。

そのためには、各研究会の組織的かつ地道な現場発想的な研究が不可欠になっています。

各研究会の役員が研究推進の核となつて当たるとともに、研究員の層の拡大と確保が大切であると思

います。

平成 元 年 6 月 1 5 日

平成元年度

専 業 計 画 案

五月 九日

印 教 研 理 科 研 究 部 総 会

(成田小学校)

六月二十八日

研 究 員 集 会

(成田中学校)

*夏 休 み 中

理 科 実 技 研 修 会

理 科 野 外 研 修 会

(各研究会単位で実施)

九月二十日

研 究 員 集 会

理 科 作 品 展

九月二十七日～二十九日

(成田中学校)

十月十七日

印 教 研 集 会

(成田小学校)

*年 間

『理研会報』の発行

*研究学校への協力

印 教 連 指 定 大 日 小 学 校

平成元年度

印 教 研 理 科 研 究 部 研 究 主 題

研 究 主 題

子どもたちが興味を持ち、主体的に参加する理科学習は、

どのようにすればよいか。

主題設定の理由

然る自分の身体で受け止め、感じ身のみならず自然がたくさんあるが、その自然を利用しての理科学習が行なわれているかという

自然に直接働きかけながら観察や技能をどう育てていけばよいか

指導法・教材の選択などを考えて

然の中にとけこんでいく中で、自

いきたい。

平成元年度

理 科 研 究 部 役 員 一 覧

◎理 科 研 究 部 長

五 味 健 (公津小)

◎理 科 研 究 副 部 長

牧 野 隆 (木刈中)

石 田 政 光 (佐倉小)

◎各 部 会 理 科 研 究 部 長

*一 部 会 部 長 佐 藤 久 司 (間野台小)

*二 部 会 部 長 加 藤 弘 明 (富里中)

*三 部 会 部 長 伊 藤 久 男 (大森小)

*四 部 会 部 長 林 田 孝 二 (八街中)

*五 部 会 部 長 高 橋 正 昭 (四街道小)

◎理 事

一 部 会

石 井 望 (西志津小)

石 田 政 光 (佐倉小)

平 山 正 一 (酒々井中)

杉 山 栄 一 (酒々井中)

二 部 会

五 味 健 (公津小)

今 井 正 臣 (竜角寺台小)

湯 浅 潔 (安食台小)

山 下 万 吉 (富里南小)

木 川 香 (向台小)

中 村 欽 哉 (成田中)

寺 内 義 雄 (栄 中)

本 橋 茂 次 (西 中)

斉 藤 政 勝 (富里北中)

小 林 茂 (富里中)

三 部 会

武 藤 喜 正 (大森小)

郡 司 福 男 (本笠二小)

伊 藤 忠 夫 (原山小)

牧 野 隆 (木刈中)

河 辺 久 男 (白井中)

四 部 会

古 谷 弘 (朝陽小)

安 井 寅 藏 (朝陽小)

京 相 光 徳 (実住小)

佐 藤 光 広 (交進小)

五 部 会

川 勝 丸 重 (四街道小)

荒 木 昭 夫 (四和小)

小 山 治 (中央小)

◎幹 事

飯 田 和 宏 (成田小)

岩 井 睦 (成田中)

一 編 集 後 記

平成元年度 第一号(通算百九十号)の理研会報、遅くなりましたがお届けいたします。

理研会報も今年度末には二百号という記念号を発刊出来そうな運びとなりました。これもひとえに

会員の先生方、先輩の先生方のご指導、ご協力のおかげと感謝しております。

今年度も、これまで以上に内容の充実、会員への適切な情報提供

というのを心掛けてまいります。会員の先生方のご協力をよろしくお願

申し上げます。

印 教 研 理 科 研 究 部 事 務 局

*原稿投稿につきましては、各研究会

研究部長にお尋ねください。